

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 141-8640
 住 所 東京都東五反田2-18-1
 氏 名 東洋製罐株式会社取締役社長 大塚一男
 代理人 川崎工場長 大川幸弘 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東洋製罐株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町11-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業(別掲を除く)
主たる事業 の内容	プラスチック容器製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		11,925 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	工務課
		所在地	川崎市川崎区浮島町11-1
		電話番号	044-266-1581
		FAX番号	044-299-1096
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ~ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	東洋製罐の環境活動の取り組みについてはホームページにて公表しています。 http://www.toyo-seikan.co.jp/eco/index.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成27年度	目標年度	平成30年度
基準排出量	(実) 24,211 (調) 23,804	t-CO ₂	(実) 23,979 t-CO ₂
削減率	(実) 1.0	%	(実) 232 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	単 位
基準年度の値	目標年度の値
削減率	%
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由	

ウ 目標設定に関する考え方

<p>川崎工場では「生産体制高効率化」を目的として、ラインの集約及び再構築を進め、エネルギー使用効率の良い集中生産体制を構築致しました。その結果、平成24年度の原油換算エネルギー使用量12,496k l→11,925k l（平成27年度）と5%削減を達成しています。</p> <p>今後しばらくはこのような大規模投資の計画は無く、他事業所の取り組みの水平展開により、地味な改善を積み重ねることで、1%削減に努めていきます。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

<p>全社的には、温室効果ガス排出量を2020年に1990年度比で25%削減することを目標としている。</p>

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	<p>○生産活動の効率化 生産開始と停止の手順を明確化し、訓練することで、不良品率低減させ、これに掛かるエネルギーを削減する。</p> <p>○照明設備の運用管理 交換時期の来た蛍光灯をLED照明へ入れ替える</p> <p>○毎月省エネ巡回の実施 生産現場で無駄を見つけ改善を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアーの拭きっぱなしや洩れ ・コンベヤやブロワーの空運転 ・照明のつけっぱなし <p>○空調・機械冷却様冷凍機更新 第一工場・倉庫棟の空調及び生産設備機械冷却用として、1986年導入したチラーは約30年経過しております。内部冷却器及び凝縮器の劣化が著しく、電気系統にも劣化が見られます。冷媒は2020年全廃となるフロン22を使用しています。これをモジュールチラーに更新する</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

川崎工場は築49年を経ています。今後老朽化による更新に備えて、再生可能エネルギー導入を検討していきます。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

ラインの集約及び再構築を進めました
 ○低速のブロー成形機を撤去し、新たに4台の高効率ブロー成形機を購入・設置することで、省エネルギー生産ラインを構築しました。
 ○数あるブロー成形機の集約を実施、結果2台のブロー成形機撤去したことで、エネルギーロスを防ぎました。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

無し

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- グリーン購入推進
- 廃棄物の分別と減量化を図る
- コピー用紙の購入抑制（裏印刷再利用推進）
- 製品輸送の直行化（デポを使用せず、自工場から直接得意先へ）

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	24,211	t-CO ₂
(調)	23,804	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東洋製罐(株)川崎工場	川崎市川崎区浮島町 11-1	1892	プラスチック容器製造販売	24,211 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--